

學會彙報

織緯研究

渡邊弘一郎

○本年度學會委員氏名

庶務部	米山寅太郎
會計部	米山寅太郎 荒木 雄二
研究部	林宇三郎(卒業生) 荒井榮 高橋 俊英
	市木 武雄
編輯部	大島 一 須藤 功 仲井眞盛信
	内田 龍

○北支滿鮮旅行團報告座談會

昭和十四年五月六日午後一時より、漢文學第二研究室において、去る三月二十日より四月初旬にかけて、北支滿鮮方面を旅行して來た旅行團の報告座談會を開催した。諸橋・内野兩先生を始め、峯間、内野、飯田、上島、林の諸先輩も御出席下さつて、非常な盛會であつた。

○昭和十四年度漢文學科講義題目

- 尙書注疏演習
- 儒教概論
- 近思錄講義
- 儀禮注疏演習
- 漢書藝文志講疏演習
- 古禮解說
- 支那文學史
- 經國集講義
- 支那語學

諸橋	教授
諸橋	教授
諸橋	教授
内野	教授
内野	教授
内野	教授
鹽谷	講師
小野	講師
王	講師

○本年度卒業生論文題目

- 十翼の研究(主として成立年代に就いて)
- 宗廟祭祀の研究
- 支那言語學史
- 儒教に於ける道について
- 先秦時代に於ける正名論
- 我が國に於ける易學とその影響
- 書經の研究(大誓洪範二篇を中心とせる)

雨宮	重治
荒井	榮
石山	興武
裏 善	一郎
大島	一
鈴木	陸雄
須藤	功

一、開會之辭	學生 荒	井君
一、所感	旅行團々長	内野 教授
一、大陸の印象	學生 荒	井君
一、北京の郊外	學生 牛	島君
一、蘆溝橋のほとり	助手 米	山氏
一、日本人の無作法	學生 裏	君
一、支那文化の特質	學生 雨	宮君

○春季講演會（第一回）

六月十七日午後一時より西館本部會議室にて開催。會長諸橋先生を始め、來聽者六十餘名に及び、盛會裡に終了。

- 一、開會之辭 學生 荒井 榮君
- 一、中世に於る博士家の活動 川瀬 一馬氏
- とその持本について。

時代區分より始めて、博士家の始源、平安朝と中世における博士家の相違、奈良朝より室町時代に及ぶ持本の検討を略説され、中世における明經博

- 一、芝居のこと 學生 鈴木 木君
- 一、東安市場 學生 石 山君
- 一、支那の衛生 學生 大 島君
- 一、教育の實狀 學生 高 橋君
- 一、支那における日本語の教育 學生 雨 宮君
- 一、提携の教育 先輩 鎌 田氏
- 一、宗教 先輩 飯 田氏
- 一、政治 學生 荒 井君
- 一、熱河の話 學生 須 藤君
- 一、飛行機の歸途 團長 内野 教授
- 一、餘興（支那の唄） 學生 鈴 木君
- 一、閉會之辭 助手 米 山氏

○第一回研究發表會

士の活動に至つて、その代表者を清原家にとり、一、頼業二、教隆三、宣賢の活動を詳述された。一、自著「秦代に於ける經書經說の研究」に對する略述 内野熊一郎氏

漢代今古文に關する検討として秦代の經書經說の研究を試み、第一に、周末秦代の社會狀態、思想系統、第二に、經學の態度論（師法論、家法論）第三に、周末秦代の經說と、周代漢代のそれとの關係、以上三方向を究明することに努めたことを略述せられた。

- 一、閉會之辭 學生 高橋 俊英君

十月二十八日（土）午後一時より、第一漢文學研究室に於て開催。會長諸橋先生を始め、多數の先輩及び會員出席の盛會であつた。

- 一、開會之辭 學生 高橋 俊英君
- 一、謎 學生 石山 興武君
- 一、子見雨子について 學生 大島 一君
- 一、批評 諸橋 教授
- 一、閉會之辭 學生 高橋 俊英君

謹
悼

服部宇之吉先生之薨去

東京文理科大學漢文學會